

潜在力をフル活用した生産強化

■水稲 水稲高温耐性品種「きぬむすめ」の現地検討会を開催



【ほ場での意見交換】

近年の猛暑の影響により水稲の基幹品種である「コシヒカリ」は、玄米の品質が低下するなど、年々栽培が難しくなりつつあります。農業普及課では、猛暑でも玄米の品質が低下しにくく、栽培しやすい品種として、温暖地向けの良食味品種である「きぬむすめ」の導入を進めており、令和8年度は、8名の水稲生産者が試験栽培に取り組んでいます。今年度は一部で苗いもちの被害がありましたが、他は順調に生育しています。

8月27日には「きぬむすめ」の生産者と関係機関の担当者を参集し、現地検討会を開催しました。当日は、時折雨が降るあいにくの天気となりましたが、「きぬむすめ」の栽培ほ場で生育の状況を確認するとともに、活発な意見交換がおこわれました。熟期の遅い「きぬむすめ」では、出穂後の防除の時期を「コシヒカリ」とずらす必要があるなど、「きぬむすめ」の特性に合わせた栽培管理についての意見が多く発せられました。

農業普及課からは生育調査の結果を取りまとめた資料を提供して、今年度の生育の状況や、新たに実施している全量基肥肥料の比較試験の状況などについて報告しました。今後は「コシヒカリ」より遅い成熟期に合わせて適期に収穫できるよう関係機関と協力して栽培指導を継続していきます。